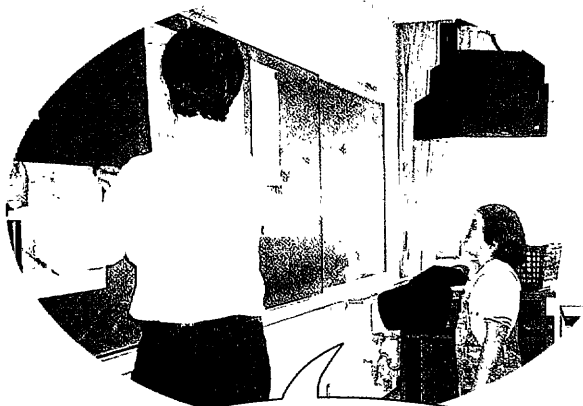


総合教育センターだより

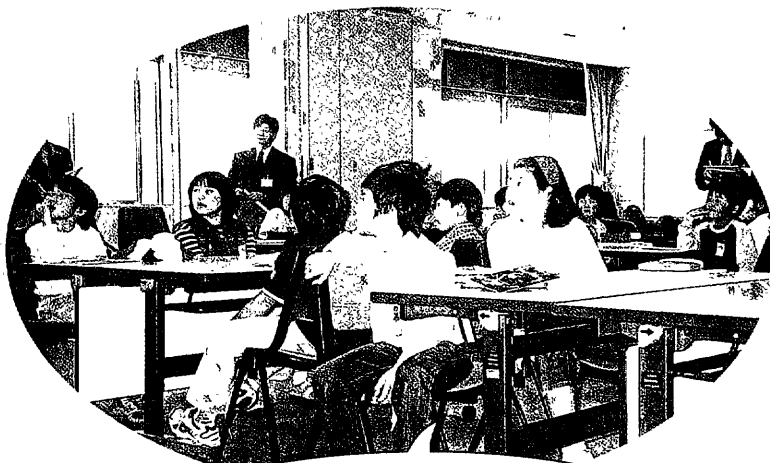
平成14年7月15日発行 第84号

今年度最初の「スタディイン総合教育センター」(6月3日)

田沢湖町立神代小学校4年生の皆さん

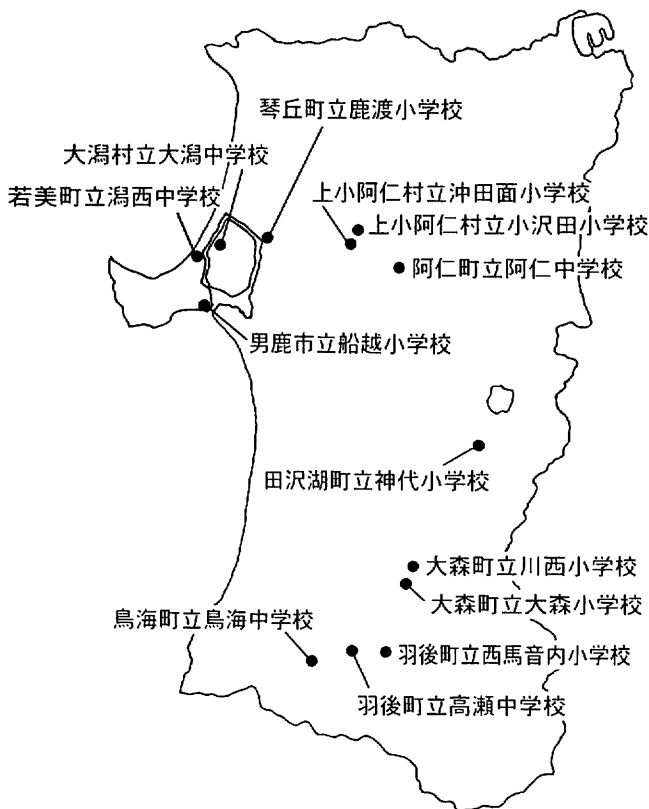


算数の授業を行う田仲指導主事と、
自分の考えを述べる児童



じっと聞き入る子供たち

今年度の実施校(7月15日現在)



「より実践的な」研修の実施

所長 鶴 飼 孝

本年4月から、小学校、中学校、高等学校において、完全学校週5日制が実施されるとともに、小・中学校においては新学習指導要領が全面实施されている。ねらいは、「ゆとり」の中で「生きる力」をはぐくむことである。

このため、各学校においては、自校の実態を踏まえ、自主性・自律性を発揮し、「特色ある学校づくり」を進めることが求められている。

総合教育センターとしては、「研究」、「研修」、「指導援助」の各事業を行い、学校が抱える教育課題の解決や教職員のニーズに応える講座の開設、運営などを通して学校のお役に立つように努めているところである。今年度は特に「より実践的であること」をモットーに、基本的な事項を押さえながら、学校の実践に役立つ具体的な研修内容を設定するとともに、受講者が直接かかわる実験や演習の実施など、実施形態も工夫しているところである。

その一例として、児童生徒が当センターにおいて、自校の先生や指導主事と一緒に授業を行うとともに、プラネタリウムや電子顕微鏡などを活用しての選択学習等から成る「スタディイン総合教育センター」、あるいは、「算数・理科などの模擬授業」の実践や「パソコンでプレゼンテーション」などの講座がある。

今後とも「魅力あるセンター」を目指して努力してまいりたい。

教職研修部

主任指導主事 工藤 正 孝

「児童生徒と共に歩む」という言葉があります。これは教育に携わる者にとって、大切なスタンスです。共に歩み、子供たちによって生かされている自分を感じる時、それは、教職を選びこの道で自己実現をする喜びにもつながります。この「共に歩む」という心をどのように獲得し、磨き合うか。当研修部では各講座においてこのことを重点としています。

【校内研修の在り方を探る研究の推進】

教員自身の自主的研修は極めて大切です。同時に、学校が抱える問題を把握し、そのことについて計画的に研修する機会を設定することは、さらに必要なことです。 昨年の当センターにおける「共同研究」では、授業や学級経営で悩みを抱えている教員がたいへん多いと分析し、校内研修の充実の必要性を指摘しています。

当研修部ではこれからの校内研修の在り方をテーマとして、校内研修の改善の一助となるべく研究を続けています。今後とも、研究成果のご活用をお願いいたします。

【学校評価をテーマとした講座の設定】

学校経営においては、外部評価や教員の自己点検、自己評価を用いた新しい学校評価の在り方が課題となっています。これは学校の自主性・自律性の確立へと続く道筋であり、早急な取り組みが求められています。

夏期に開催予定の講座「これからの学校と経営展望」では特にこのことを重点として設定しています。たくさんの方々への受講を期待しています。

教育課題への取り組み

教科研修部

主任指導主事 佐藤 洋 子

児童・生徒の学力向上を目指して

【学習の楽しさを体得させるスタディイン】

ブラネタリウムや電子顕微鏡などセンターの施設設備を活用した学習や、指導主事による授業演習などを通し、児童生徒の学習に対する意欲や興味・関心を高める工夫をします。また、宿泊時には指導主事が自学自習の相談に応じるなど、主体的な学習の確立について応援します。

今後希望する学校はご相談ください。

【理数教科への興味・関心を引き出す模擬授業研修】

理数科離れや学力低下が指摘されている中、児童生徒の興味・関心を喚起し意欲的に学習に取り組める授業の在り方について、小・中学校の初任者による模擬授業などを実施して指導力の向上に努めています。

【授業改善を目指した教科研修部の研究】

昨年度からの継続研究で、今年度は研究協力員の協力を得て、児童生徒の状況を踏まえたより実践的な授業改善の在り方を、評価も含めて具体的に提言します。

【一人一人を生かす学習指導と評価の工夫】

学習指導要領に示す目標を実現するために、学習目標及び評価規準の設定の仕方、単元計画の作成、指導と評価を一体化させた授業展開の在り方などについて、各教科の研修講座で取り上げています。具体的な進め方や資料等について、いつでもご相談ください。

情報教育研修部

主任指導主事 米澤 幸 男

国の計画では平成17年度までに各学校の全ての学級のあらゆる授業でコンピュータを活用できる環境が整備されることになっています。また、教員にはコンピュータ等を操作できるだけでなく、授業で活用できることが求められています。

各教科の学習においてコンピュータやインターネット等の情報手段を積極的に活用することによって次のようなことが期待できると考えられます。

- ・興味・関心や意欲を高め、理解を助ける
- ・思考力や判断力、創造力や表現力等を培う
- ・基礎・基本の定着や主体的な学習方法の修得に役立つ
- ・創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開できる

また、情報活用能力は読み・書き・計算と同じようにこれからの子供たちに必要な能力で、小学校から高等学校まで系統的に学びながら、身に付けていくものです。来年度からは高等学校で普通教科「情報」を必修教科として学習します。小・中学校の土台が大切になります。

花まるっ教育ネット「kna」では、授業で活用できるコンテンツの充実を図り、学校で役立つ情報を多く提供したいと考えています。ぜひ、ご活用ください。

特殊教育・相談研修部

主任指導主事 江橋 美 紀子

「子供・保護者・学級担任・学校のニーズに応え支援していく」ことを目指して

【生徒指導への取り組み】

今や、戦後第4のピークといわれる青少年の非行には、校種や学校規模にかかわらず直面する状況にあります。また、従来の問題行動への対応の仕方では解決しにくいことがあり、潜在化する傾向にもあります。

こうした中、「生きる力の育成」「心の教育の充実」の実現のために、学校教育のあらゆる場で生徒指導の機能を十分に発揮していくことが求められています。

そこで、今年度の研究テーマを『児童生徒の問題行動の解消を目指して』とし、学校が組織としてこれまで以上に生徒指導上の課題に適切に対応していけるように「生徒指導における危機管理の在り方」について提言したいと考えています。

【特殊教育から特別支援教育へ】

特殊教育に対するニーズの多様化やノーマライゼーションの進展など、様々に状況が変化してきています。従来の盲・聾・養護学校及び特殊学級における「特殊教育」に加え、通常の学級に在籍する、特別な教育的支援を必要とする児童生徒等に対する指導の充実が求められています。具体的な支援の在り方に悩んでいる先生はお電話をください。通常の学級や学校でできる様々な対応についてご相談に応じます。

総合教育センターが、今年度特に大切にしていることです。

研修講座ア・ラ・カルト



5月23日

〔特殊教育学校初任者研修講座：
身近な素材を生かした遊び
－生活科－〕

活動例「フワフワ怪獣と海」
空気の感触を楽しむ
遊びの一つです。



6月3日・4日

〔中学校
コミュニケーション・セミナー
－英語科－〕

グループディスカッション。
「なぜ英語を教えるのか」
もちろん英語で。



6月14日

〔インターネットで
電子メール〕

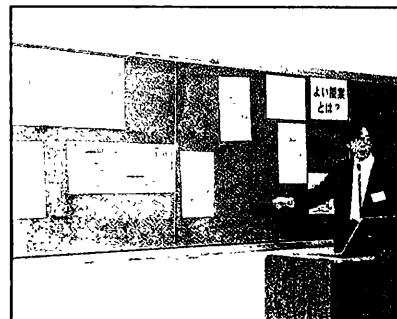
電子メールを授業で活用
するアイデアを出し合っ
ています。



6月6日・7日

〔図工指導の鍵
－教師の感性UP－〕

玄関付近に布などを使って
造形行為をするという課題
に、試行錯誤しながら取り
組む先生たち。



6月14日

〔数学科における授業改善
－中学校数学科－〕

「数学教育の目的は？」「よい授業とは？」という
テーマで協議をしました。
後期には実践成果を持ち寄って研修を深めます。

「生きた壁」

総合教育センター研修員 酒井 光 和

時折関西弁を交えたはぎれのよい伊藤先生の話しぶりは、私を惹きつけて離さなかった。

中でも、PTAで携帯電話の話題になった例が印象に残った。昔なら、「子供にそんなに高価な物は持たせられない」と誰かが言えばみんなが納得したものだが、今は違うという。社会は、価値観の多様化に伴って「なんでもあり」になってきた。自由に選択することができる反面、責任をもって選択しなければならない苦しみがあるという指摘は、身に覚えのあるところである。

伊藤先生は、「今、子供たちに必要なものは、安心してぶつかれる“生きた壁”です。」と語気を強められた。温かい血が通っていて、拒否される側の痛みを分かっただけで「だめなものだめ」と言える大人のことだと思ふ。

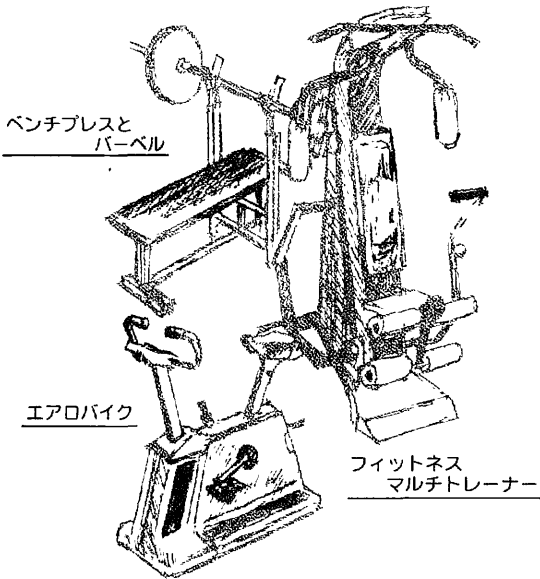
思い起こしてみると、私がお世話になった学校には、いわゆる「頑固親父」が必ずいて、生徒たちから慕われていた。教師である私も知らず知らずのうちに頼りにしていたが、いつまでもそれではいけないと思う。確固たる指針を早く探り当てて、子供たちの“生きた壁”になりたい。

「思春期の心理」伊藤美奈子氏(お茶の水女子大学大学院人間文化研究科助教授)の講演(6月6日)から

Welcome to Room

トレーニング

体育関係の講座ではもちろん、昼休みや宿泊時にも利用されている器具類。



お知らせ掲示板

★星の観察教室のご案内

期日 8月20日(火)、21日(水)
 時間 午後6時から(夜9時頃まで)
 対象 小・中学生と保護者
 内容 プラネタリウム学習会、星座早見盤の製作、星空の観察
 会場 総合教育センター

※詳細はセンターのHPが各校へ配布したプリントを参照してください。

★夏期の講座に参加しませんか。次の講座はまだ受け入れ可能です。ご希望の方は講座案内に掲載している担当研修部に早めにお電話をください。追加申し込み用紙は、その後お送りください。

C-11	公民	7/29,30	C-57	ふるさと教育	7/24
C-27	星空の世界	8/5,6	C-58	学校経営	8/20
C-43	テーブルコーディネート	8/2	C-62	パソコン入門(北)	8/19,20
C-51	学級活動	7/23	C-78	生徒指導実践	7/25
C-53	総合一小学校	8/16	C-82	教育相談実践	8/23
C-54	総合一中学校・高等学校	8/19	C-89	幼児教育	7/31
C-56	福祉・ボランティア教育	8/1,2	C-90	発達遅れ幼児	8/1,2

三浦初子

教職研修部の三浦指導主事は今年4月に秋田市の勝平中学校から転入しました。主に中学校初任研、中学校5年研、進路指導や福祉教育の講座を担当しています。初任研では「分かりやすく」、5年研では「実践を振り返り、先輩や同僚のよさに気付いてもらう」ことを心がけています。

最近、美しい絵や手工芸品が載っている本を見たのをきっかけに、休日は図書館巡りをし、色や形の美しさとの出会いを楽しんでいるそうです。

稲荷一清

「ホームページの作成」「インターネットで情報検索」「パソコンでつくるビデオ番組」等の情報教育関係の講座を担当しています。また、数学教師ということで、スタディン総合教育センターや、初任研の模擬授業などの算数・数学指導にかかわることもしばしば。

今重視して取り組もうとしているのがセンターのHPの充実です。インターネットで公開してもよい画像などの提供をこの紙面を借りて先生方をお願いしたいそうです。自身もこのための写真撮影に今熱中しています。

紹介
します

指導主事の横顔

佐藤博英

体育・保健体育関連の講座を2年間担当してきました。講座構想のモットーは①話が長くなならない、②学校ですぐ使える、③子供の視点を忘れない、④教師の関心の高い内容、⑤必ず実技を行い体で覚えてもらう、ということです。センターに来て新しく立ち上げた講座が「体づくり運動」。新内容なので普及に努めています。

学校では野球部を担当。今も、春から秋にかけては早朝野球を、冬はスキーを楽しんでいるそうです。

曾山和彦

特殊教育・相談研修部の曾山指導主事は今年4月に本荘養護学校から転入しました。昨年、山利組合総合病院院内学級で子供たちと学び、たくさんの元気ももらったということです。特殊教育学校初任研、生徒指導(エンカウンター等)の講座を主に担当しています。講座は、「面白くて(ニーズに応え)、ためになる(理論的な裏付け&実践に役立つ)」ものを目指しています。出身は群馬県桐生市。趣味は卓球と合気道。家族キャンプも大好きだそうです。